

読書意欲を高める指導方法の工夫

—2年国語教材「ひなの はなし」の指導を通して—

目 次

I	テーマ設定の理由	43
II	研究の仮説	44
III	読書指導の今日的意義	44
IV	読書指導の全体構想	45
1	読書指導の場	45
2	研究構想図	47
V	国語教育と読書指導	48
1	国語科における読書指導	48
2	説明文の読解読書指導	49
(1)	説明文のとらえ方	49
(2)	説明文教材の指導の意義	49
(3)	説明文を読む意欲を高める指導方法の工夫	50
VI	指導事例	51
1	単元名 「ひなの はなし」	51
2	単元の目標	51
3	教材について	51
4	単元構成	51
5	単元の計画	52
6	第一次の授業メモ	52
7	指導の実際	54
8	第三次の授業メモ	57
9	授業実践を終えて	57
VI	研究の成果と今後の課題	59
	資 料	60

浦添市立当山小学校教諭

下 地 トミ子

読書意欲を高める指導方法の工夫

—2年国語教材「ひなの はなし」の指導を通して—

浦添市立当山小学校教諭 下 地 トミ子

I テーマ設定の理由

今回の教育課程審議会の答申では、二十一世紀に向かって、国際社会に生きる日本人の育成や生涯教育の観点から、「個性を生かす教育の充実を図るとともに、自ら学ぶ意欲を持ち、社会の変化に主体的に対応できる豊かな心を持った、たくましく生きる人間形成の育成」が特に重要であることが示された。

このような、自ら学ぶ；社会の変化に対応する；豊かな心を持つ等々の教育の基礎となるものの一つに、「読書」は欠かせないものであると、私は考える。

人は、読書することによって、自らの考えを刺激されたり、心を豊かにしたり、学習に役立つ知識や生活に役立つ教養を身につけたりする。このように読書は、いろいろな情報を取捨選択する主体的な考えや判断力を育て、読み手の人格形成にも影響を及ぼす作用があるからである。

ところで、近年、私達を取り巻く活字文化の環境は、量的にはもとより、取り扱う内容の面でも、学校や地域の図書館等の施設の面でも、年々充実の度を増してきている。

書店には、高度な専門書から趣味や娯楽本、果てはマンガに到るまで、多種・多様の本が所せましと並べられている。子ども達を対象とした本についても、勿論例外ではない。このような社会の変化に伴って、子どもの情操教育や、読みの能力を育成する上で効果があるという理由から、各家庭や学校で、子どもに本の「読み聞かせ」等をするようになってきた。

また、幼児向けの絵本なども豊富に出回っていることもあって、子ども達も小さい頃から本に親しむ機会が増えてきている。その結果、小学に上がる頃にはすでに、文字を覚え、かなりの長文を読みこなせるようになっており、読書が日常の中に定着している子も多い。

しかし、その反面、本をなかなか読もうとしない子も少なくない。そこで、昨年は、

1. 本の楽しさや面白さを味わわせ、広がりのある読書活動をすることができる。
2. 読書を学習や生活に役立たせ、自己を高めるための力とする。

ことをねらいとして、学級活動等を利用して「読み聞かせ」を中心にした読書指導を試み、図書館の利用時間を効果的に運用するために、事前指導に力を注いだり、時間の確保にも努めたりしたが、なかなか思う様な成果は、あげられなかった。

子ども達が本を読まない原因として、次のような問題点があげられる。

1. 娯楽性の高いマスコミ文化の発達……テレビやファミコン、テレビゲーム等
2. 高度成長期の学歴社会の歪み……子ども達の塾通いによる問題
3. 教育現場における問題……学校全体の取り組みや、指導者の意識、指導方法の問題
4. 子どもの読みの能力……読書するための読みのレディネスが不十分

そこで、私は、昨年の反省を基に、国語科における読書指導を中心に、読書意欲を高める方法を模索したいと考え、本テーマを設定した。

II 研究の仮説

説明文教材「ひなの はなし」の指導において、順序をおさえて育ち方を読み取る読解指導から、他の鳥や動物の育ち方と比べて読む読書指導へ繋げる単元構成をすることによって、進んで本を読むとする意欲を高めることができるであろう。

III 読書指導の今日的意義

1. 社会の変化と教育の課題

今回の新指導要領の改訂の背景として、近年の科学技術の進歩と経済の発展が教育白書の中で報告されている。改訂の重点としては、

(1) 情報化に対応する能力の育成、(2) 生涯教育、(3) 自己教育力、の三点が上げられている。これから、ますます進歩していくであろう科学技術、それに伴って変化する社会の様相に、主体的に対応する能力の育成が求められ、同時に、従来と違った学校教育の役割も求められている。次に、各項目について、読書とのかかわりで述べてみたい。

(1) 情報化に対応するための読書指導

情報化社会に対応すると言う場合、一般的には情報機器の利用を指し、読書指導の場に置いても、機器利用における図書館の資料の検索・活用等の面からとらえられがちである。先の新指導要領では、国語科改善の基本方針の中で、特に、情報化などの社会の変化に対応するため、「目的や、意図に応じて、適切に表現する能力」と、「相手の立場や考えを的確に理解する能力を養い、思考力や創造力及び、言語感覚を育てるようにする。」等が述べられ国語教育の在り方を方向づけている。

複雑な社会の変化に伴い、目的や意図に応じて、必要な知識や情報を選択していく能力を養おうとする時、特に、“読書活動”は欠かせないものだと考える。見聞きする体験による知識や情報の吸収も必要不可欠なことではあるが、それには、時間的、空間的量の問題が伴う。時間的ロスを防ぎ、居ながらにして、必要とすることの全貌を、しかも短期間で理解し吸収するには、それらに関する書物に頼ることが手っ取り早く、しかも確実である。

このことから、情報化社会に対応する方法としての読書指導の必要性があるといえよう。

(2) 生涯教育と学校教育

これまでの学歴主義を是正する意味から、文部省は、これまでの学校役割の在り方を方向変換しようとする形で、生涯教育を打ち出している。

その理由の一つに、

① 所得水準の向上、自由時間の増大などによる需要の多川化

② 科学技術の進歩や産業構造の変化に伴う需要の増加

などを挙げている。

生涯学習における学校の役割としては、“人々の生涯学習の基礎を培うこと”を位置づけている。小学校教育は、学習の全ての基礎を培う場であり、更に、国語科は全ての教科の基礎である。このことを考え合わせた時、国語科における“読み”の学習を徹底し、理解力を育てていかなければならない。そして、国語科における“読み”の発展としての読書活動を育てることは生涯の基礎になるものとして、十分な指導の必要がある。

(3) 自己教育力と読書

「自己教育力」とは、生涯にわたる学習の基礎を培うという観点に立って、自ら学ぶ目標を定め、何を、どのように学ぶかという主体的学習の方法を習得させるものである。また、学ぶことの意欲を育て、学ぶことの楽しさや、成就感を体験させるもので、自己の生き方を探究していこうとするものである。

一方、読書は、子ども一人ひとりの心に、豊かさを与え、心を奮い立たせ、新しい生命力を与え、積極的な自己教育力を育てるものである。読むという行為を通して、視覚、聴覚、その他の五感の働きを誘発し、イメージの世界を作りあげる。

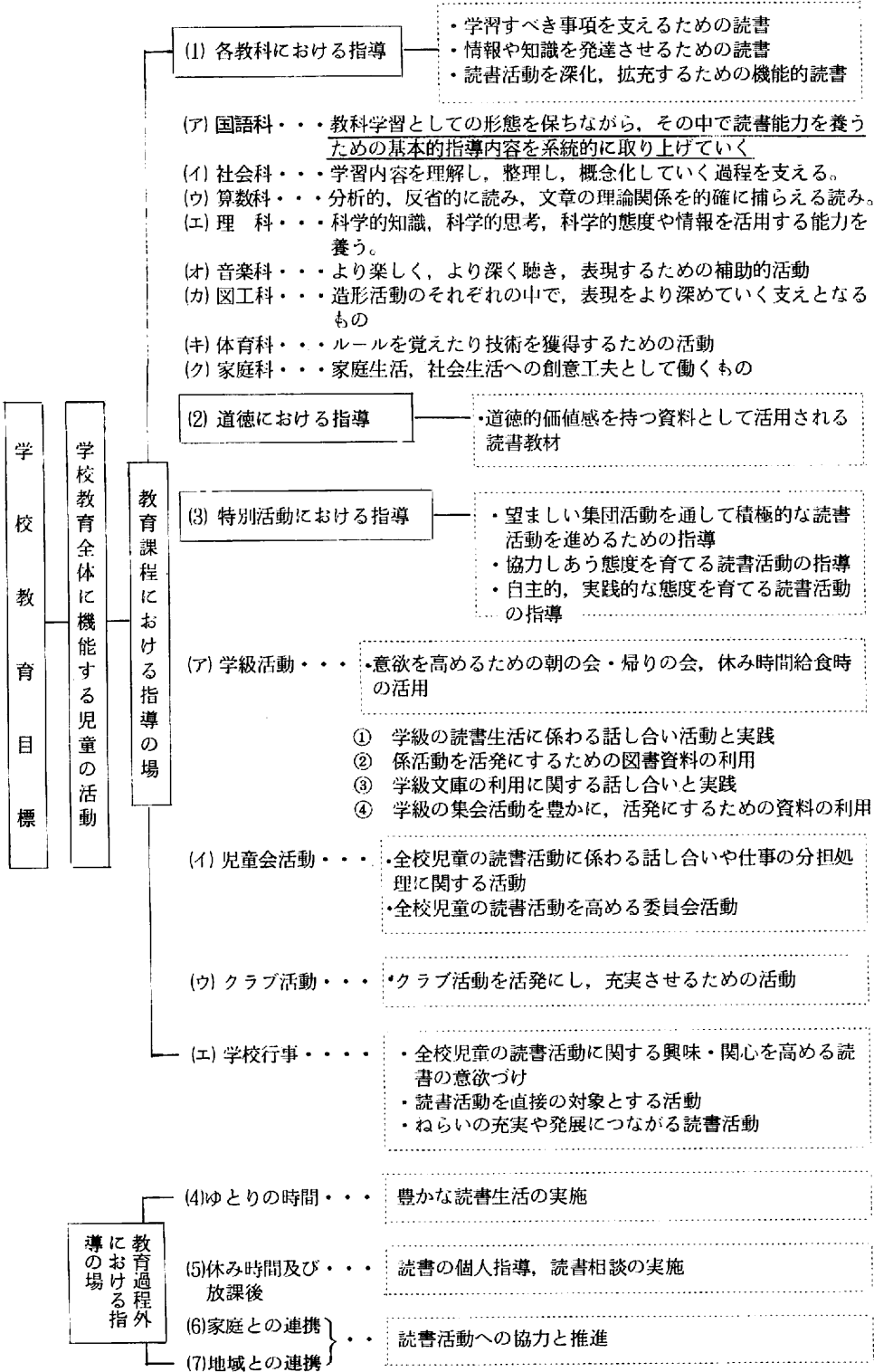
人は、読書することによって、書かれていることを追体験し、初めて出会う新しい世界を発見しているのである。この、イメージの世界での活動が、人間性を育て、人間形成をもたらすのである。このような、作用を及ぼす読書及び読書指導は、生涯教育のベースであると同時に、一人ひとりの心の世界を耕し続ける自己教育力としての役割を果たすものである。

IV 読書指導の全体構想

1. 読書指導の場

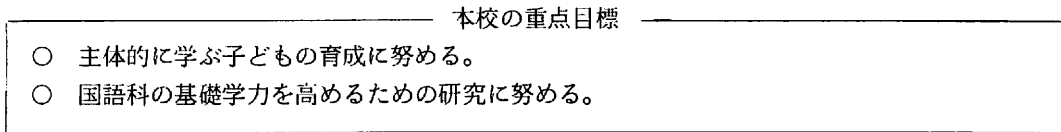
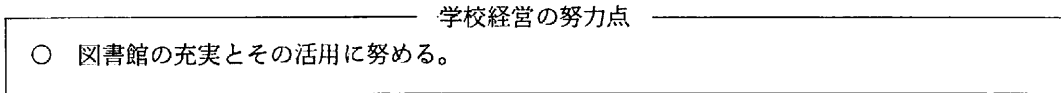
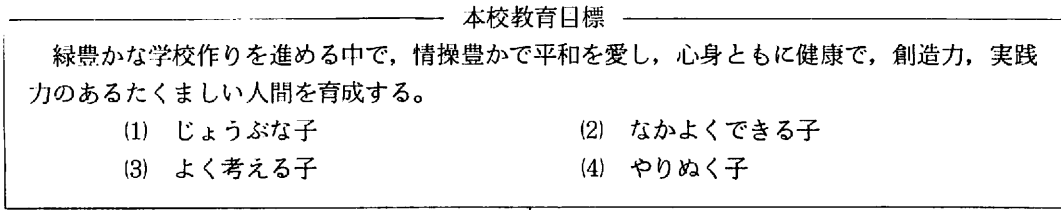
読書指導とは、豊かな読書経験を得させる事によって人間形成を進め、更に、そのための援助をすることである。「読み」の行為としての読書活動は、児童一人ひとりの興味、能力、適性などに応じて、主体的であると共に、個性的な性格を持つものである。基礎学力の向上、課題解決による探究心や知識を向上させ、価値体系の習得によって、人生観、世界観等、豊かな心を持つ人間性等を形成することができる。こうした読書活動による人間形成は、各教科、道徳、特別活動、その他の指導の場と機会において展開されなければならない。学校教育における全体計画のもとに、計画的、組織的に実施されることが必要である。それらの関係をまとめたのが、次の図である。

読書意欲を高める指導方法の工夫



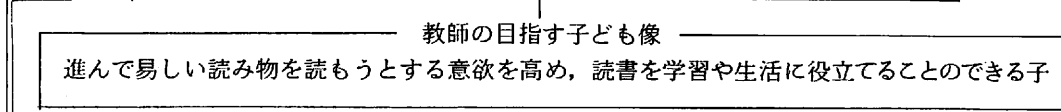
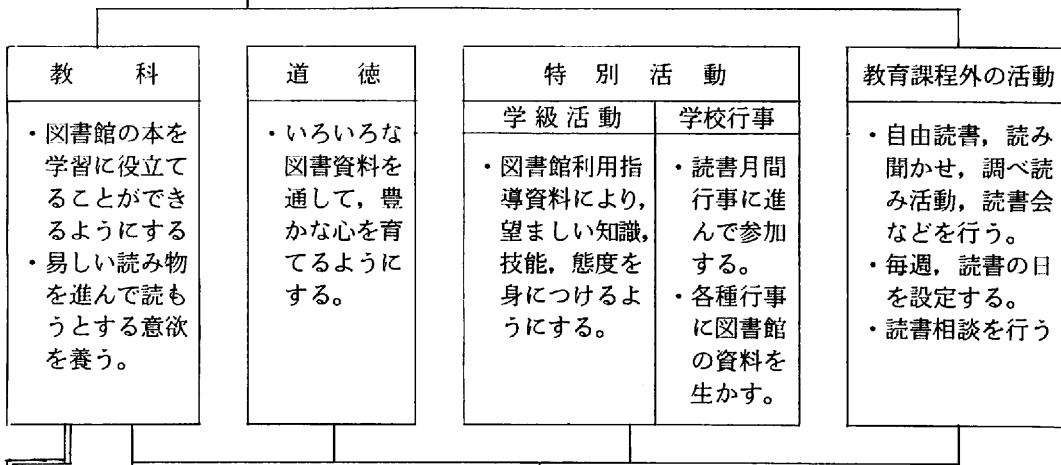
* 「小・中における読書活動とその指導」文部省

2. 学校教育目標に照らし合わせた研究構想図



各学年の指導の重点目標

1年	2年	3年	4年	5年	6年
易しい読み物を楽しんで読もうとする態度を育てる	易しい読み物を進んで読もうとする意欲を高める。	いろいろな読み物を読もうとする態度を育てる。	読書の範囲を広げようにする。	読書を通して、考えを深めるようにする。	適切な読み物を選んで読む習慣をつける。



※ 二年生国語・説明文教材「ひなの はなし」の指導を通して、目標にせまる。

V 国語科教育と読書指導

1. 国語科における読書指導

読書と言えば国語科における指導内容と思われる程、読書と国語科は、密接に関連している。新指導要領における各教科の目標を見ても、目標の中に読書指導を明確に位置づけてある教科は、やはり国語科において他にはない。国語科の中で、読書指導の基礎が養われることは、読みの活動が中心となる「読書」であれば、「読むこと」の技能を中核に据えて指導を進めていく国語科に、その大体が委ねられることは当然のことといえる。しかしながら、読書指導が、国語科のみにおいてその全責任を負うべきものではないことは言うまでもない。国語科を中心に各教科を通して行う必要があるばかりでなく、道徳、特別活動等の教育課程の中でも、また、始業前や放課後、家庭学習等の教育課程外でも、ひいては、家庭や地域社会とも連携を密にしながら、学校教育の全ての指導を通して組織的になされなければならないことは、すでに述べた。

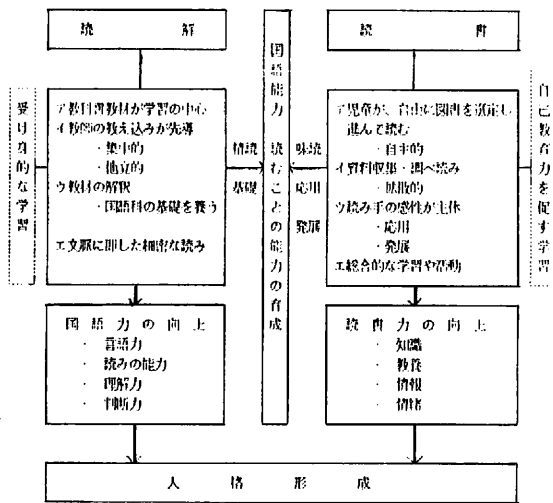
ところで、国語科の目標は、「国語を正確に理解し、正確に表現する能力を育てるとともに思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てることである。

読書活動の基礎となる読字力、理解力、判断力、鑑賞力等が指導され養われる。教科書を読みながら、語句や文、文章の相互の関係やその形式的構造を把握する仕事が国語科の読解指導である。そして、それを包含しつつ、読むことを人生に結びつけるような広い仕事へと拡大強化することが読書指導である。学習指導要領の各学年の目標にも見られる様に、読解指導と読書指導は、密接な関係を持っていることがわかる。例えば、

二学年の目標では、「(2)事柄の順序を考えながら話を聞いたり、事柄の順序や場面の様子の移り変わりなどに注意しながら文章を読んだりすることができる」とともに、易しい読み物を進んで読もうとする意欲を高める」とある。つまり、読解指導は、文に書き表わされていることの意味をつかみ、思想や立場、物の見方、考え方、感じ方等を理解するために国語科の中で行われるものであり、読書指導は、読解指導の基盤の上に、自己の知識や教養を揺さぶる鮮やかな情報源として、また、自己の体験を想起させたり、豊かなイメージを呼び起こす刺激剤として導かれるものである。

そこで、子ども達一人ひとりの意欲や主体的な学習に繋がる読書意欲を育てる為には、普段の学習の中で、いつも読書に結びつくような機能的な「場」を用意することが必要となってくる。そのために、読書指導の立場から、学校全体に組織的な指導体制を組むことが肝要ではあるが、国語科以外のカリキュラムと国語科の年間計画が有機的に運営されるような工夫が必要である。

加えて、図書館利用指導のカリキュラムや国語科のカリキュラムとの間にも密接な関連をつけることも大事である。



2. 説明文の読解・読書指導

(1) 説明文のとらえ方

① 説明文の種類

説明的文章は、ある事柄について、知りたいという読み手の要求に応えるために、知識や情報を伝達提供する目的をもって書かれたものである。教材として取り上げられている説明文には、大別して、次の二つがあげられる。

(ア) 実用的説明文……………直接生活に役立てるために書かれたもの

記録文、報告文、実用的な説明・解説（〇〇の作り方、〇〇の使い方等）

(イ) 科学的説明文……………科学的な興味や関心を持たせ、それに応えることを狙いとして書かれたもの。

② 説明文の読み方

記録文、報告文、報道文、論説文などの説明文の読み方は、味わって読む文学ものの「読み」と違って、そこに何が書かれているのか、主張は何なのか等の要点や要旨、論旨を読み取っていく読み方である。つまり、筆者の意図、批判、主張はどのへんにあるかをつかみ取っていく読み方である。文学がイメージをつかみ、全体を想像し、感性を豊かにしていくために読むのと違って、説明文の読みは、化学的、論理的にものごとを考え、そこから、より確かな知識や情報を得、それをまとめあげていく力を育てる読みである。

③ 知的興味と知る喜び

童話や物語などの、味わい、楽しんで読む文学的文章と違って、知識や情報について書かれた文章は、どちらかといえば理屈っぽい、親しみのない書きぶりとして一般的に敬遠されがちである。しかしながら、子どもは、元々、知りたがりやである。書かれている内容について「なぜだろう?」「何だろう?」「ふしぎだ!」「〇〇についてもっと知りたい」などという好奇心や探究心を引き出すような学習の在り方を工夫することによって、知的好奇心が刺激され、満足を得ることによって、説明文の学習を通して知る喜びを味わうことができるであろう。

(2) 説明文教材の旨導の意義

現場では、「近頃の子供は、文章を読んでも、書いてあることの意味がわからない。簡単な算数の文章題などが、読んだだけでは解決できない。理科の実験・観察の要領や、社会科の内容も読んだだけではつかめない。」という声が多くなってきた。

童話や物語なら、さほど困難を感じないで読めるのに、教師からみれば、なぜこれくらいの文章が、と思われるごく簡単な文章でさえ、内容の把握がうまくできないというのは、一体どこに原因があるのだろうか。

理科や、社会の文章あるいは算数の文章問題は、たいてい、ある事象や事態についての知識情報を知らせたり、読み手に何らかの指示を与えたりするものである。童話や物語の様に、人物の行為、行動を順序だてて味わい深く書いてある文章とは異なり、どことなく味気なく、そっけない感を与える。

しかしながら、教科の学習の基礎・基本を養う国語科では、そうした文章の読み取りをも身

につけさせる必要がある。

子どもの、未知のものを知ろうとする心を育てる為にも、書かれている内容についての好奇心、探究心を刺激し、誘発する意味からも指導の意義は大きい。また、教科書教材としての説明文は、おおむね読解指導を狙いとし、言語事項の指導に重点が置かれがちであるが、最近では、

- ① 読書に対する興味関心を育てる。
- ② 情報処理の能力をつける。
- ③ 読むことによって、考えを深める。

ことを指導の重点に、説明文で、読書指導をすることの重要性が叫ばれるようになってきている。

(3) 説明文を読む意欲を高める指導方法の工夫

どんなに優れた文章でも、それを学ぶ子供の側に、興味や関心がないと、本当の読みの意欲がわからないのは当然といえるだろう。このことは、読み手の読みの能力や経験等とも深く関係がある。読みの意欲を高めるためには、次の点に留意しつつ指導を進める必要がある。

① 知る喜びを大切にする

初めてわかったこと、知っていたこと、疑問に思ったこと、もっと知りたいこと等を大切にし、自分の問題を強く意識させる。

② 課題を解決する喜びを大切にする

文章に根拠を求め、「できた」、「わかった」という喜びを体験させる。

③ 生活経験と結びつけて読む

説明文で取り上げられている内容は、身近なものを題材にしながら、見落としやあまり知られていない面を紹介しているものが多い。発見の喜びを与えることによって興味関心を育てていくようにする。

④ 正確に読み取るために作業を組む

サイドラインを引いたり、絵を描いたり、動作化したり、試写する等の具体的な活動を取り入れることによって内容の読みをより確かなものにしていく。

⑤ 発展的な学習内容を組む

学習したことの発展として、調べたことを基に文型の練習をしたり、同じような話題、構成で、自分なりに説明文を書いたり、絵本や紙芝居作りをする。

VI 指導事例

1 単元名 「ひなの はなし」

2 単元の目標

- (1) 順序を表している言葉に気をつけて、ひなの育つ様子を読み取ることが出来るようにする
- (2) 鳥や動物のことが書かれている本を読み、育ち方の違いについて探究しようとする態度を育てる。

3 教材について

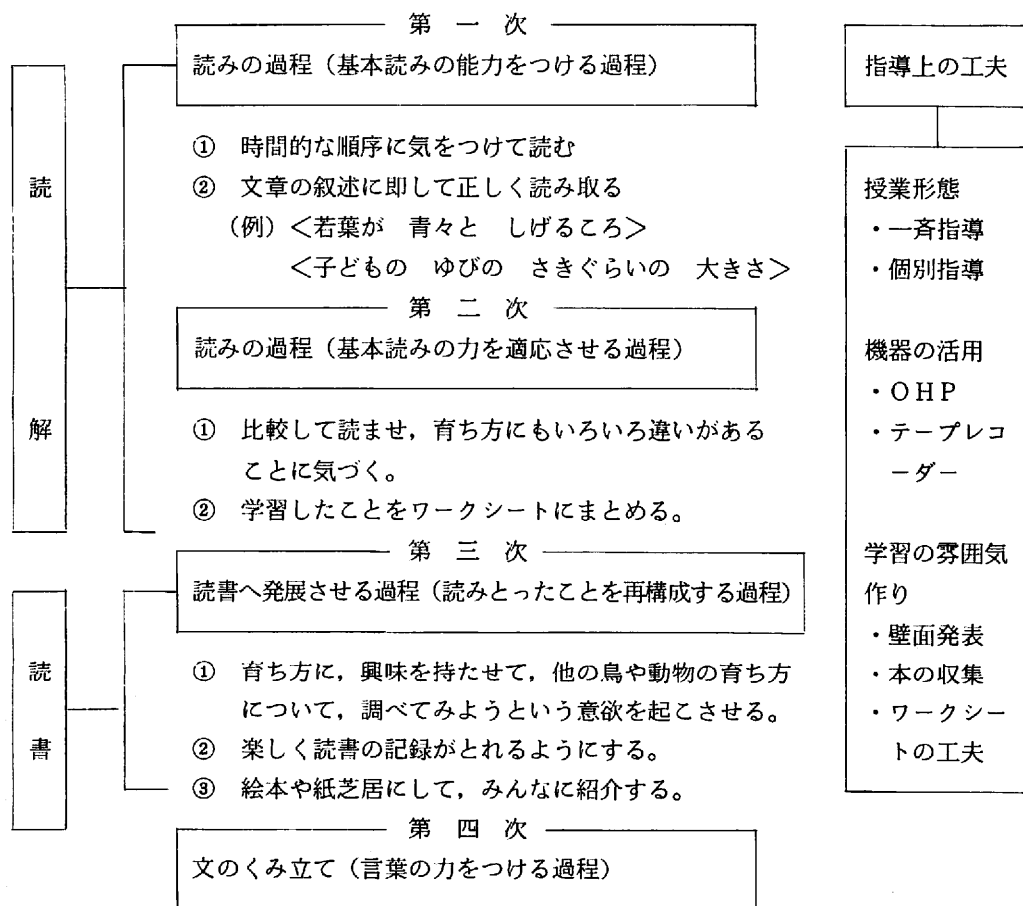
この教材は、知識・情報を読む系列の説明文である。中心教材は、二つの説明文から成っており、(1)つばめ<晩成性のひな> (2)ひよこ<早成性のひな>で構成されている。

この二つの中心教材によって、「時間的な順序を表す言葉に気をつけて」正しく読むことを学習し、学習を通して、概知の事を確かめ、未知の事を知る喜びを味わうようにする。

関連教材として、「たくさん 本を 読もう」では、中心教材に基づいた読書指導が設定されている。更に、言語学習として、「文のくみ立て」も含まれている。

こうした一連の指導の中で、理解力を高め、読書意欲を高める学習の展開が行われるように構成されている。

4 単元構成



5 単元の計画

- 第一次・・・① いろいろなひなについて考え、発表する。 (1時)
 全文を通読し、学習の計画を立てる。 (2時)
- ② 「つばめ」を読んで、大体の内容を理解し、詳しく読むための学習計画を立てる。 (3時)
- ③ かえったばかりのひなの様子や、親鳥の世話の仕方を理解する。 (4時)
- ④ ひなのえさの食べ方、成長の仕方、親鳥の世話の仕方を理解する。 (5時～6時)
- ⑤ ひなの、成長から巣立ちまでを理解する。 (7時～8時)
- 第二次・・・⑥ 「ひよこ」の全文を通読して、「つばめ」で学習したことを応用して学習計画を立てるようにする。 (9時)
- ⑦ かえったばかりのひよこの様子をつばめのひなと比べて、理解する。 (10時～11時)
- ⑧ ひよこの育ち方や親鳥の世話の仕方を、つばめと比べて、理解する。 (12時～13時)
- 第三次・・・⑨ 鳥や動物のことが書いてある本を読む。 (14時～15時) 本時
- ⑩ 読んだ本を基に、紙芝居や絵本作りをする。 (16時～17時)
- ⑪ 自分の作品を発表する。 (18時～19時)
- 第四次・・・⑫ それぞれの言葉の働きを理解し、文を作る。 (20時～21時)

6 第一次の計画と授業メモ

単元名： 四 ひなの はなし				単 元 構 成	四ひなののはなし
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 順序を表している言葉に気をつけて、ひなの育つ様子を、読み取ることができるようにする。 ○ いろいろな鳥や動物の本を読み、育ち方の違いについて、進んで、探究しようとする。 				(1) つばめ
	指 導 課 程				(2) ひよこ
時	教 材	指 導 内 容	留 意 事 項	実施日	授 業 メ モ
1	ひなの はなし 全文	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろなひなについて考え、発表する。 ・ 「ひなののはなし」の全文を通読し、学習の計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きさ、色、羽、餌の食べ方、親鳥の世話の仕方、雛の育ち方等について発表させる。 ・ 分かったこと、もっと知りたいことを中心に文章の組み立てに基づいて、順に読み進めていく計画をさせる。 	6 / 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の実態が十分に把握されていないことにより、内容が未消化に終わった。 ・ 全体的に、時間内で書き上げようとする力がまだ身につけていないようだ。

3	つばめ	(1) つばめを読んで、書いてあることの大体を理解し、詳しく読むための学習計画を立てることができる。	(1) かえったばかりの雛の様子。 (2) 餌の食べ方、親鳥の世話の仕方、成長の様子。 (3) 巣立ち等について、順に詳しく読み進めていくことを計画させる。	6 / 9	<ul style="list-style-type: none"> 一つひとつの作業に思っていたよりも時間が掛かった。 読む、書く時間をたっぷり取る必要がある。
4	つばめ	<ul style="list-style-type: none"> かえったばかりのひなの様子や親鳥の世話の仕方を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を押さえて、かえったばかりのひなの様子や、親鳥の世話の仕方を読み取らせる。 	6 / 14	<ul style="list-style-type: none"> 「目も耳も」の表記から、活発な発表があり、親鳥がひなを温める訳も、「赤はだか」と関連づけて読み取ることができた。
5 / 6	つばめ	<ul style="list-style-type: none"> ひなの餌の食べ方、成長の仕方、親鳥の世話の仕方を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ひなの餌の食べ方、親鳥の世話の仕方、ひなの育ち方が、言葉を押さえて発表できる様にさせる。 	6 / 15	<ul style="list-style-type: none"> 「食いしんぼう」という言葉が、ひなの数(5, 6わ)と、「阿十回」という言葉と関連づけて読み取る事ができた。 「かわるがわる」を、ひなを守る親の気持ちや態度と結び付けて理解する事ができた。 餌を口の奥深く突っ込む訳を、歯が生えていない等と、イメージを膨らませたりしている。
7 / 8	つばめ	<ul style="list-style-type: none"> ひなの成長から巣立ちまでを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 巣立ちの様子が、言葉を押さえて発表できる様にする。 	6 / 16	<ul style="list-style-type: none"> 「つばめ」(内田康夫著)の関連ページを示す事により、子ども達の興味を集める事ができた。同時に、教科書の記述の補説の効果及び、イメージの強化と理解の手助け等を図ることができた。 必要冊数が揃えられる事によって、学習の効果と読書への関連を一層図る事が出来るのではないだろうか。
第二次 「ひよこ」については省略					

7 指導の実際

- (1) 本時の学習・・・「いろいろな本を読もう」
(2) 学習計画・・・第三次・・・⑩ (本時 $\frac{14}{21}$ ～ $\frac{15}{21}$ 時)
⑩ } 単元の計画参照
⑪ }

(3) 児童の実態

本学級の児童の一年時の読書傾向を、図書館利用カードで見える限りにおいては、男子は文学、非文学とともに、バランス良く読んでいる子が多いが、女子は、文学作品が圧倒的である。

2学年になり、この単元に入ってから読書傾向は、男女ともに、文学に偏りを見せている。

国語学習における音読と書くことの能力は、6月の時期的な面から見ると、やや力不足の感を拭えない。運動会という大きな学校行事を数週間後に控え、学習になかなか身が入らないことに加え、学級担任が、入れ代わり指導するという問題も災いし、かなり、騒然とした学級の状態である。全体的な男女の傾向として、男子は活発だが、女子はかなりおとなしい。

教材との関連では、

「ひなの はなし」の学習を一次、二次と経過するに従って、家庭で飼育している小鳥や身近で体験した鳥のことについて報告が増え、学級全体に鳥に対する興味・関心も高まりを見せている。家庭から、鳥の図鑑を持ち寄ったり、市立移動図書館の「としょ丸」から鳥の本を見つけて借りたりするなど、本への反応を示す子も次第に増えてきている。また教師の提示した手作り本に刺激を受け、殆どの子が本作りをととても楽しみにしている。

(4) 本時設定の理由



子供たちは、身近に鳥を見る機会が多いが、ひなの育ち方に違いがあることは、あまり理解していない。「ひなの はなし」の教材文を学習することにより、晩成性のつばめや早成性のひよこのそれぞれの特徴に気づき、驚きと発見の喜びを覚えるであろう。


教材文では、その様子や写真や、挿絵で内容を補説しているが、生まれたばかりのつばめが赤はだかである様子や、生まれたばかりのひよこの羽が濡れている様子などについては十分補説されているとはいえない。そこで、読解指導の段階から、教材以外の図書を利用することにより、教材文の理解を一層助け、更に、図書への関心を向ける様に留意する必要がある。そうすることにより、他の鳥や動物についても調べてみようとする意欲を育て、必然的に本を手に取りろうとする態度を育てることになると考えた。また、読むことだけに留まらず、読書記録の初歩的な扱いとして、読んだ本を絵本に再構成することを組み入れた。そのことにより、読書への興味を維持し読書経験の累積にも繋がることを期待した。

(5) 本時の目標

「ひなの はなし」で学習した育ち方の順序を読み取る力を応用して、鳥や動物について書かれている本を読み、ワークシートにまとめる。

(6) 本時の学習展開例

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	児 童 の 活 動 及 び 反 応
<p style="text-align: center;">導 入</p> <p style="text-align: center;">展</p> <p style="text-align: center;">開</p>	<p>1. 「カッコー」と「どうぶつのおかちゃん」の話を聞いて育ち方について話し合う。</p> <p>2. 調べてみたい鳥や動物について発表させる。</p> <p>3. 本をさがす。</p> <p>4. 楽しく読書する。</p>	<p>・生まれた時の様子や、育ち方の違いに気付かせる。</p> <p>・学級文庫にある中からさがさせる。</p> <p>・「ひなの はなし」で学習した力を応用して読むようにさせる。</p> <p>＜読み進める視点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きさ ・目や耳 ・生まれたばかりの様子 ・育つ順序 ・巣立ちの様子等。 <p>・大事なところには葉をはさむようにする。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>①「他の鳥の巣に卵を生むの？」 「もずは、カッコウのひなを育てるの？」 「親鳥より大きいなあ！」 等という反応が聞こえる。</p> <p>②, ③ 殆どの子が「鳥」の本を手取る。犬、馬等の希望をした子は、準備された本では対応出来ないため、他の動物や鳥の本に変更した。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>④「たまごの中のひよこが書いてあるよ。」 「先生、メジロもつばめと同じように生まれたすぐは、目がないよ。」 「先生、ヤンバルクイナはひよこと同じ様に生まれてすぐ歩けるんだ！」</p>

まとめ	<p>5. ワークシートの項目に従って読み取ったことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の内容を押さえて大事な所をまとめさせる ・項目に沿った記述が見つけられない子には、アドバイスをする。 ・本の名前は、必ず記入させる。 	<p>「ここにも教科書と同じように赤はだかつて書いてあるよ。」 ここかしこで、発見の声が聞こえてくる。</p>  <p>ワークシートの項目に従って各自書き進めている。 書きながらも、新しい発見があると教師を呼んだり、教師が、近くに来た時に、嬉しそうに報告している。</p>
	<p>6. 時事の活動内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居や絵本作りをすることを知らせる。 	<p>「どこを書けばいいの？」と助けを求めてくる子には、本文を呼んで聞かせたり、必要箇所を示したりすると安心し、納得して作業を進めている。</p> <p>「僕は、紙芝居」「私は、1枚絵本」「僕たち、グループで作っていい？」等と、早くも絵本作りに意欲を見せている。</p>

※ 評価項目

- ア 読書に対する興味と関心を深め、鳥や、他の動物のことを書いてある本を読むことができたか。
- イ これまでの学習した力を応用して、楽しく読書できたか。

8 第三次・読書指導 (⑩、⑪) の授業メモ

時	教材	指導内容	留意事項	期日	授業メモ
16	いろいろな鳥や動物の本	・読んだ本を基に、絵本や紙芝居を作ることが出来る。	・ひなの育つ順序を押さえた絵本作りをさせる。 ・作業能力に応じた絵本作りを考えさせ、個人または、グループで作業を進めさせる。	7	・絵本作りを通して、育て方を再確認したり、学習した内容と同じことや、違うことの発見をして喜びをあらわしている。 ・文章については、自分の言葉にして書き表している子が多い。
19	自作絵本	・作った作品を基にして、発表することができる。	・発表の方法や、役割分担について話し合わせる。 ・聞き手によくわかる様に発表する工夫をさせる。	1	・一枚絵本の希望者が多く、紙芝居は以外に少ない。背とじ本の希望が一組 ・どの子も発表に意欲を見せ、友達の発表も熱心に聞いている。
以下 第四次まで省略					

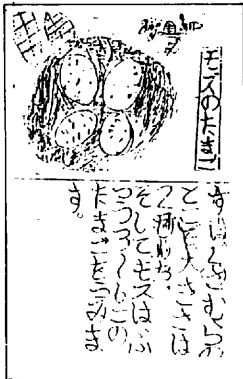
9 授業実践を終えて

(1) 反省と考察

- ① 発問が、十分吟味された「つばめ」の読解指導の段階では、内容を押さえたり、学習活動を活発にするなどの面で、かなり効果をあげることができたが、本時では、その点の詰めの甘さを感じた。
- ② 読解指導の段階から、同内容の図書を適所で扱うことにより、本への興味・関心を育てることができた。
- ③ 「カッコー」や「動物の赤ちゃん」の読み聞かせによって、学習したことと比較することにより、育ち方への関心を高め、早く本を読みたいという雰囲気盛り上がった。
- ④ 読み聞かせの本の選定にも十分に時間をかけ、ねらいに沿った適書の発掘に心掛ける必要がある。
- ⑤ 今回、司書の協力を得て、各一人ひとりに対応できる必要冊数を準備することができたことも学習した内容を読書へ発展させる効果を高めた。
- ⑥ 学習内容を読書へ発展させるには、何よりも学校図書館の蔵書が、対応できることである。図書館司書とタイアップした図書の充実にも努める必要がある。
- ⑦ どの子も絵本作りを楽しみ、自分の作業能力にあわせた作品を作ることができた。作業の早い子は二・三冊も仕上げたりしている。
- ⑧ 子ども一人ひとりの能力を十分に生かし、学習を活性化させるためには、学級の実態をよく把握しておくことが大切である。
- ⑨ 学習をより活発にし、学習のねらいを十分浸透させるためには、早期に学習態度のしつけ(話の聞き方、発表の仕方等)を指導すべきである。
- ⑩ 発問の内容や、タイミングをきめ細かに煮詰めることが最も重要である。
- ⑪ 作業に当たっては、考える視点をきちんと押さえた指示が必要である。

(2) 作品分析による考察

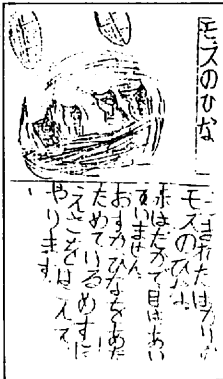
(1)



学習中の疑問であった巣作りを解決。

モズの子は、
お母さんから
お話を聞いて
巣を作ります。
お母さんが
お話を聞いて
巣を作ります。
お母さんが
お話を聞いて
巣を作ります。

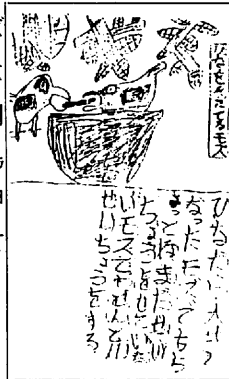
(2)



生まれたばかりのひな
の様子と同時に、親鳥
の世話が押
さえられて
いる。

モズの子は、
お母さんから
お話を聞いて
巣を作ります。
お母さんが
お話を聞いて
巣を作ります。
お母さんが
お話を聞いて
巣を作ります。

(3)



えさを食べて、どん
どん成長して
いく様子を
捕らえてい
る。

モズの子は、
お母さんから
お話を聞いて
巣を作ります。
お母さんが
お話を聞いて
巣を作ります。
お母さんが
お話を聞いて
巣を作ります。

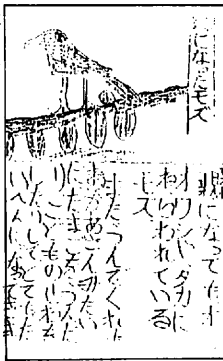
(4)



巣立ちの様
子と、日に
ちが、押さ
えられてい
る。

ひなは、
お母さん
からお話を
聞いて、
巣を作ら
せてもら
います。

(5)



「ひよこ」で
敵がいるこ
とを学んだ
子どもたち
は、どんな
敵か関心が
高い。子
どもたち
には、ひな
が成長し、親鳥となるサイクル
が印象的だ。

モズの子は、
お母さん
からお話を
聞いて、
巣を作ら
せてもら
います。

評価

- * 学習した内容にそって、育ち方が押さえられている。
- * ②では、指導された言語を押さえ、きちんと記述している。
- * ①と⑤は、本を読んでいく中で、関心をとらえた所を表現している。

※ 学習後の感想

ひなのえさをよんだり
本をつくらしたりから
とてまたおもしろ
かったです。 U.K

いろいろなひなのことがよくわか
りかみほいや本にまとめた
のでべんきょうになった
O.R

ひよこやつばめの本をいろいろ
読んで、おもしろ
かったです。 Y.M

ト子先生とおべんきょうしてかみほ
いなどつくらたりマモのしつ
ておべんきょうしてつたつた
F.R

VII 研究の成果と今後の課題

国語科の説明文の指導を通して、「読書意欲を育てる指導の方法の工夫」について、研究を進めてきたが、説明文指導と読書指導の二本立で行う形となり、時には、思考が混乱してしまいそうであった。実践を重ね、学習に必要な資料を作成していく中で、それぞれの性格を明確に把握することができたこと、OHPやレコーダー等の機器の活用を図ったことは、今回の研究の成果であるといえよう。

わずか、四か月の研究期間で、通算14時間の授業実践を行うことは、かなりハードな日程であったが、実践授業をやり終えた時は、何とも言えぬ満足感が湧き上がってきた。実践の全体を振り返ると、研究の成果として、次の様な子どもの変容をみることができた。

1. 第一次の説明文（読解）指導の段階では、ねらいに沿って、学習計画を立てたり、時間的な順序を表した言葉に気をつけて、育ち方を読み取ったりすることができた。
2. ・・・も・・・も、などの言葉を押さえることによって書かれていない内容についてもイメージを広げたりすることができた。
3. いろいろな本を読むことによって、学習した内容を確認したり、育ち方を比較したりして新しい発見をする中で、読書を楽しむことができた。
4. 絵本作りを通して、更に多くの本を読もうとする意欲を高めることができた。

今後の課題としては、

- 1 教育課程の中での読書指導の総合的、有機的な年間計画の作成
- 2 教科指導と図書館利用の関連の工夫
- 3 学習に対応できる関連図書の検討

などがあげられる。これらの実践を通して、課題の解決を図るとともに、今回の研究を更に深め発展させていきたい。

※ 参考文献

石田 佐久馬 他著	説明文の読解・読書指導	東洋館出版社
小松 善之助	楽しく力をつく説明文の指導	明治図書
坂本 一郎 他編	新読書指導事典	第一法規
野路 潤 家 他編	読書指導実践事例集	第一法規
文部省	読書活動とその指導	大日本図書
熱海 則 夫 監修	図書館利用指導と読書指導	ぎょうせい
	科学のアルバムシリーズ	あかね書房

※ 資料

(1) ワークシート

① 第一次・「つばめ」

Handwritten notes and diagrams for the first page of the worksheet. It includes a large rectangular box containing several lines of text and a small diagram of a bird's head profile.

Handwritten notes and diagrams for the second page of the worksheet. It features a central illustration of a bird's head in profile, surrounded by various boxes containing text and smaller diagrams.

Handwritten notes and diagrams for the third page of the worksheet. It contains several vertical columns of text and small diagrams, possibly related to the bird's anatomy or behavior.

Handwritten notes and diagrams for the fourth page of the worksheet. It features a large, detailed drawing of a bird's head with various parts labeled with handwritten text.

Handwritten notes and diagrams for the fifth page of the worksheet. It includes a central illustration of a bird in flight, with surrounding text and diagrams.

Handwritten notes and diagrams for the sixth page of the worksheet. It contains several vertical columns of text and small diagrams, continuing the notes from the previous pages.

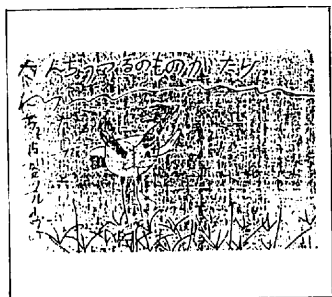
Handwritten notes and diagrams for the seventh page of the worksheet. It features a large, detailed drawing of a bird's head with various parts labeled with handwritten text.

Handwritten notes and diagrams for the eighth page of the worksheet. It includes a central illustration of a bird in flight, with surrounding text and diagrams.

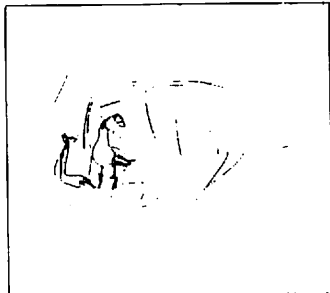
Handwritten notes and diagrams for the ninth page of the worksheet. It contains several vertical columns of text and small diagrams, continuing the notes from the previous pages.

(2) 子どもの作品例 (紙芝居)

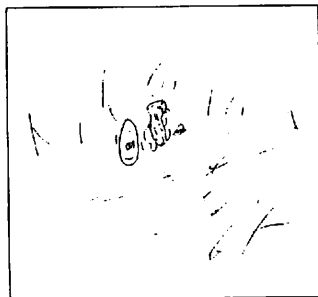
(1) 表紙



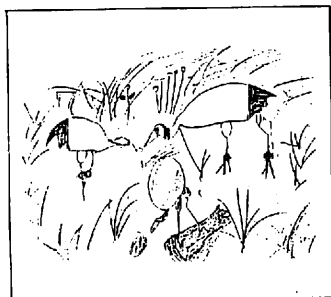
(2) 卵をあたためる親鳥



(3) ひなの誕生



(4) えさをさがす



(5) 巣立ち



(6) 仲間とくらす

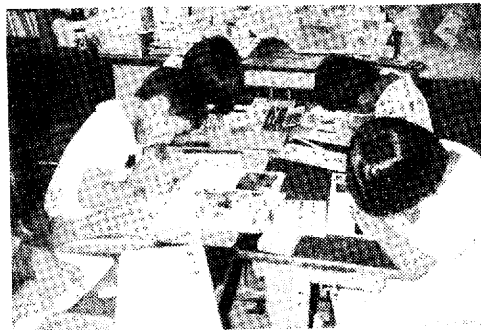


(3) 学習風景

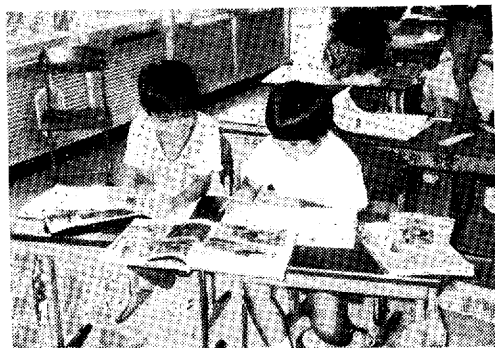
① 第一次の学習



③ 絵本作り



② 本時の学習 (楽しく読書する)



④ 作品発表

